



広報せき

SekiGocoro

2021

12

No.1730



ラグビーのまち 関



SekiGocoro 12

SEKI City Community Magazine

TOPICS

上下水道の「いまとこれから」... 8-9P
 コロナワクチン3回目接種 10P
 INFORMATION 14-28P
 子育てカレンダー 31P

伝統の重み。

4年連続41回目の花園出場へ！



第101回全国高等学校ラグビーフットボール大会岐阜予選決勝
▶11月14日 ▶長良川球技メドウ

関商工 12 $\left[\begin{smallmatrix} 5-5 \\ 7-3 \end{smallmatrix} \right]$ 8 岐阜工
[2T1G] [1T1PG]

後半8分、関商工FL山内副将はラックからのパスを受けて相手ディフェンスを引きずりながら逆転のトライを決める

雲つない快晴の長良川球技メドウ。関商工が岐阜の王者を決める闘いに挑む。相手は過去、何度もこの決勝の舞台でしのぎを削ってきた好敵手岐阜工だ。

序盤、岐阜工のハイパント攻撃に対し、ボールが手につかずノックオンの反則が重なる。ペーシングがめまぐるしく、前半10分、相手スクラムから素早く左に展開されると、岐阜工のアタックにラインを破られ先制トライを許す。

ここからは一進二退の攻防が続く。そして、このまま前半が終わろうかという嫌な流れの中、敵陣でのラインアウトから得意のモールに持ち込む。BKも加わり押し込み左に展開。パスが乱れたがFB大澤選手がボールを拾い上げる。大澤選手は「ボールをもらう前から外にスペースがあったので狙っていた。同点にして勢いづけたいと

思い、気合いで突破した」と振り返るとおり、迫りくる相手を気持ちでかわし、同点のトライをあげる。このまま前半は5分で終了した。

ハーフタイム、前半押し込まれ元気がないメンバーに小澤主将は「とにかく試合を楽しもう。最後まで絶対に諦めずプレーしよう」と、チームとして原点に返るよう声をかけた。

前半キヤッチミスが続いて消極的だったキック処理は、ミスを恐れずチャレンジしようと選手間で決めた。

後半開始3分、前半の勢いそのままに反則から相手にPGを決められ58。じわりと差を広げられ嫌な空気が流れ始める。

しかし同8分、相手陣でのラインアウトからモール

井川茂雄さん

いかわしげお◎関商工(昭和61年度卒)――一般企業―東海大学―岐阜県教諭
平成23年今井前監督からチームを引き継ぎ今年で11年目。自主性を重んじる方針を掲げ、練習メニュー、サインプレーなど選手自身が考えてプレーすることを大切にしている。現役時代はCTBとして花園に出場。多彩なパスでチームを勝利に導いた。



「You Tube
市公式チャンネル」で
特集映像を
お楽しみいただけます。



小澤主将さん【CTB】

おざわ いっさ 関商工3年 ラグビー部主将、170cm / 78kg。旭ヶ丘中、関ラグビースクール出身。兄が花園でプレーする姿を見て感動しラグビーを始める。正確なキックと、力強い突破でチームを引っ張る。走りながら周りの選手を活かすプレーが持ち味。目標とする選手は田村優（日本代表）。卒業後も、大学でプレーを続ける。

を押し込む。練習で何度も確認し磨いてきた攻撃だ。コロナ禍による部活動自粛期間、選手たちは練習の成果を携帯電話で共有しながら、体重を増やすことにも成功していた。そのかいあってモールの威力も格段に上がった。モールから右へ展開し小澤主将が突っ込む。そのラックからSH隅田選手が素早く球出すると、勢いをつけ走り込んできたFL山内副将がディフェンスラインのギャップを突き、そのままインゴールへ逆転のトライを決める。この場面を山内副将は「ボールをもらう前から、トライまでの道筋が見えた気がした。味方からいいボールが出たので行くしかないと思った」と振り返る。この大舞台で大仕事をやってのけ

た。12-8。この試合、初めてリードを奪う。
岐阜工は、その後も前半同様ハイバント攻撃を続ける。しかし、ベンチの背番号23番小川選手は冷静に見ていた。「大丈夫だ、いける」
小川選手は、もともとFLであつたが右肩脱臼により7月末に手術を受けた。手術は成功したが、6か月間のドクターストップを言い渡される。花園には間に合わない。部をやめようかと悩んだが、「この仲間とともに花園へ行きたい」と自分にはできないことに取り組む。岐阜工の映像を何度も見て、ハイバント攻撃の特徴を分析しチームに伝えていた。その努力に応えるかのように、小澤主将が相手ハイバント

を次々と処理していく。攻め手を消された岐阜工はボールを展開するが、CTB太田選手、WTB苅谷選手が体を張ったタックルで突破を許さない。
しかし、後半25分、自陣からの攻撃中、FWの選手が危険なプレーで7分間の一時的退場（シンビン）に。残り時間を、相手より一人少ない14人で闘うこととなる。ここで、献身的なプレーでFWを引っ張ってきたLO加藤選手と交代し、PR水口選手が入る。前半からベンチ前で一人黙々とウォームアップし、いつでも試合に出られるよう準備をしていた選手だ。試合時間が残り僅かになる中、チームの巨漢PR高嶋選手が何度もボールを持ち相手に当たる。3年生のFW、澤村選手、青田選手、古田選手、櫻谷選手が素早くサポートに入り孤立させない。ロスタイム、最後は小澤主将が右足でタッチに蹴りだしノーサイド。12-8。最後まで粘り強く闘い抜いた関商工が4年連続41回目の花園出場を決めた。ベンチでは試合に出られなかった3年生の山田選手が泣いている。選手、ス

タッフ、家族、学校が二丸となつてつかんだ勝利だった。
試合後、記者団との取材の中で井川監督は「毎年もつれる岐阜工との決勝戦だが、最後には花園経験が豊富な関商工の伝統の力が出たのかなと思う。ここから花園へ、もう一段ギアをあげて臨みたい」と厳しい顔を崩さなかった。
小澤主将は「前半からミスが続き悪い流れだったが、慌てずに行こうと選手同士で声を掛け合つた。全員が諦めずに最後まで走りぬいたことが勝利につながつた」と振り返つた。「個人的には対面のCTB12番、13番だけは絶対に止めようと決めていた。そこはできたかな」と、この時だけは笑顔を見せていた。



関商工 WTB 苅谷選手の素早いサポートからSH 隅田選手が左へ展開、同点トライにつなげる



前半24分、関商工 FB 大澤選手は相手を振り切り左中間へ同点トライ



関商工ラグビー部
公式 Instagram

一緒にラグビーをやろう！
経験がなくてもコーチや先輩が丁寧に教えてくれます。

入部者大歓迎

ラグビーって楽しい

関ラグビーの仲間たち

最初はちょっとだけ怖いかもしれません。

でもボールを持って走り出してみてください。きっと風景が一変します。

これまでの不安は遥か後ろへ流れ去り、目の前には自分の進むべき道が見えてきます。

そして周りには信頼できる仲間たちが。

さあ、みなさんも一緒に**“LET’S PLAY RUGBY”**



中学ソフト部ではケガで選手としてあまりプレーできなかったのが、高校では選手をサポートしたいと思いマネージャーに。花園を目指す選手を支えていきたい。

林 千里さん

はやし ちさと◎関商工3年
ラグビー部マネージャー

毎日、たくさんの用具やドリンクを運ぶので、重いものが持てるようになった。緑ヶ丘中ソフトボール部出身。



ボールを持って突進したときに相手をはじき飛ばせると、強くなってるんだとうれしくなる。少しでも前に出られるよう、相手のギャップをついて当たるよう工夫をしている。

山内 尽さん[FL]

やまうち じん◎関商工3年
ラグビー部副将 165cm/75kg

旭ヶ丘中、関ラグビスクール出身。常に声を出し仲間を鼓舞する。低くあたるプレーを持ち味に相手選手をなぎ倒す。目標とする選手はマイケル・フーパー(豪)



練習試合でトライを決めた時は、本当にうれしかった。ボールを持って走っているときに気持ちいい。

亀井 愛月さん[WTB]

かめい まなみ◎桜ヶ丘小4年

関ラグビスクールでプレーを始めて1年。同スクールでFWとして活躍する兄(小6)が目標。将来の夢は美容師。

ラグビー部での3年間、山口先生に学び社会人として生きていく基礎ができた。

高井 直人さん[FL]

たかい なおと◎関商工(昭和60年度卒)
関商工ラグビー部OB会長

現役時代は突き刺すようなタックルで鳴らした。下級生の指導役を任されており、1学年下の井川監督(関商工)世代からは相当恐れられていたという。

タグラグビーは、男女関係なくプレーできるところが好きです。みんなと一緒に走ることが楽しい。

森下 愛子さん

もりした あいこ◎桜ヶ丘小6年

クラブ活動でタグラグビーを始める。タグを取ったり、ボールを持って走ることが得意。将来の夢は、音楽関係の仕事に就くこと。

子どもたちが気軽にラグビーにふれあえる環境づくりに貢献していきたい。15人全員で守り、全員でトライへ向けボールをつないでいくラグビーというスポーツは、熱くて面白い!

石木 佳英さん[CTB]

いしき よしひで◎医師、関市ラグビーフットボール協会理事
岐阜大学医学部ラグビー部時代は、俊足と切れ味鋭いステップで相手を抜きトライを重ねた。現在ラグビーフェスティバルのマッチドクターを務めるなどラグビー界への協力を惜しまない。

ラグビーは、おもいっきり体をぶつけ合いプレーすることで、他の学校の子ともすぐに仲良くなれる。全国大会出場、そして全国制覇に向け頑張ります!

太田 快心さん[CTB]

おおた かいしん◎富岡小6年
関ラグビスクール高学年の部主将

ラグビーに取り組む姿勢とスキルの高さで、メンバーから信頼を集める。好きなおやつはグミ。

ラグビーを通して関市から次世代を担う子どもたちが育ってほしい。関商工ラグビー部がさらに全国で活躍するため応援を続けたい。

市原 慶三さん[WTB]

いちばら けいぞう◎関商工(昭和48年度卒)
関市ラグビーフットボール協会理事

花園ベスト4のメンバー(過去最高戦績。メダルは全国3位の証)。卒業後は中部電力で打倒トヨタを目標にラグビーに打ち込む。OBの多くが協会、スクール、部活動の運営に携わる姿に目を細める。

SekiGocoro 04

***ONE for ALL,
ALL for ONE***

今月の特集では、熱い想いをもって活躍する「関のラグビー人」を通して、ラグビーをプレーする楽しさと、その奥深い世界観についてご紹介します。

ラグビースクール

楽しくプレイ、そして感謝の気持ち

A photograph showing Coach Kato, wearing a red shirt and black shorts, standing on a grass field and talking to a group of young soccer players. The players are wearing dark blue jerseys with white numbers and names like "GIFU J.F.C. SELECT". One player in the foreground has the number 13 on his back. Another player to the right has the number 14. A third player further back has the number 69. They are all looking towards the coach.



初心者の体験大歓迎です!

RUGBY-SCHOOL

タグラグビー
(小学生)

鬼ごっここの延長で走り回ろう

おせきひろき◎関商工(昭和62年度卒)ー日本体育大学ーサントリー
関商工出身では武山氏(サントリー)に次いで2人目の日本代表。代表キャップ5。第48回全国社会人選手権決勝の三洋電機戦ロスタイムでのトライが有名。同年の準々決勝でも7連覇中の神戸製鋼相手にトライを決め準決勝進出に貢献。平成27年から4年間サントリーサンゴリアスのGMを務め、2年連続日本選手権優勝に導く。



尾関 弘樹「サントリー酒類(株)東京統括支社長」

関市のラグビーについて何うと「関市のラグビーを語る役目は、そろそろ若い人に代わってほしい」と謙遜するが、まぎれもなく関市ラグビー界のレジェンドである。

中学の先生に「足が速いから」と関商工ラグビー部を勧められ入部。高校へは毎日、自転車で須賀坂を越え通った。高校から始めたラグビーであったが瞬く間に成長し、高校日本代表にも選出される。大学は山口先生の勧めで日体大へ。2年時には大学選手権準優勝を経験する。卒業後の進路に迷っているときも、先生の一言でサントリーへの入社を決める。いつも最後に肩を押ししてくれる恩師の存在があった。

初めての日本代表は社会人2年目だった。その後も呼ばれ5キャップを獲得する。

尾関弘樹、その名を全国にとどろかせたのが平成8年2月全国社会人ラグビーフットボール大会決勝での奇跡のラン。神戸製鋼の8連覇を阻み勝ち進んだサントリーは、決勝で三洋電機と対戦。後半ロスタイム、ラストワンプレーで尾関選手がボールを受け疾走、劇的なトライを決め、チームを初の優勝に導く。以降30歳の引退まで社員選手として、勝利に貢献し続けた。

社業とラグビーを両立させるのが会社の伝統としてあり、引退後は社業に専念する。その時、ラグビーで学んだことが大いに役に立った。素直に人の話を聞き、何事も謙虚に振る舞う。体を張るスポーツをやってきたから逃げずにぶつかれたのだと言う。現在は、120名を超える社員を指揮する役職だ。重圧もある。しかし、「きつい時にきつい道を選ぶ」「人のために体を張る」恩師から学んだラグビー精神で今日も明るく前を向く。

福永 昇三「東洋大学ラグビー部監督」

福永監督は、生まれも育ちも関市であり、豊かな自然の中で伸び伸びと少年期を過ごした。高校は県外の私立へ野球留学をするも1年で退学し、兄姉が卒業した関商工に入学する。1年遅れての入学であったが、持ち前の明るさとひたむきさで技術を磨き、花園出場を果たす。大学はリーグ戦所属の東洋大へ進学。その後の努力もあって、社会人の名門三洋電機から声がかかり入社する。トップリーグが開幕しプロ化が進む日本ラグビー界に激動期にキャプテンを務めたほか、チーム初の日本選手権優勝にも貢献した。引退後は、明治大のFWコーチなどを経て、母校東洋大の監督に就任し現在に至っている。

監督就任後、ケガに苦しんだ経験を活かしてトレーニング施設を充実させるなど改革に余念がない。目指す人物像は、論語にある「仁者」になる。福永流に言うならば「かつこいい男」になる。ラグビーをやっているからかつこいいのではなく、かつこいい男がたまたまラグビーをやっている、学生をそいういわれるような人に育てることが今の目標だ。

昨年は、コロナ禍で入れ替え戦が中止となり、1部昇格のチャンスが断たれたが「今年こそ1部に昇格しますよ。そして来年は大学選手権出場を目指します」と屈託ない笑顔で話す。会って話すと、すぐなる男だ。

高校1年の時、靱帯を損傷し手術をして以来、引退まで10回もの手術を経験。現役時代はケガとの闘いだったという。しかし苦しいリハビリの中「自分にとってラグビーがいかに大事な存在であるかに気付いた。それから、不平不満を言わなくなり裏方に回ってチームをサポートできるようになった」と話す。度重なる手術、先の見えないリハビリなど、つらい時期もあったが、仲間の励まし、家族の支えがあつて困難を乗り越えてきた。

きついな



ふくながしろう◎関商工(平成6年度卒)ー東洋大学ー三洋電機
現役時代は、野武士軍団と恐れられた三洋電機ワールドナイツで活躍。当時の同僚トニーブラウン(現日本代表コーチ)とは今も世界基準の戦術を学び合う関係だ。平成30年、東洋大学ラグビー部監督に就任。講演活動のほか、ラグビー関連の著書もあり多方面で活躍中。昨年からスポーツ心理学を学ぶため東洋大学大学院に通う。

ラグビーコラム 文／太田直哉

ラグビー未経験者ではあるが、関市ラグビー協会の会長職を拝命している。単なる「ラグビーファンであった私を、仲間に入れてくださったラグビー関係者の皆さんには本当に感謝している。私がラグビーファンとして、または会長としてすべきことは、協会の人たちとともに、ラグビーがいかに楽しく、たくましく、また見習うことの多いスポーツであるかを皆さんにお伝えし、一人でも多くファンを増やすことであると思っている。

ラグビーは、両チーム合わせて30人が激しくぶつかり合い闘うスポーツであるから、選手たちが闘争心と冷静さ、この相反するような感情をうまくコントロールできなければ、単なる危険なスポーツになってしまう。しかし、実際にはそうならない。これは、プレーヤーが規律を守り、相手や仲間を尊重する精神を持っているからであると思う。

また、トライシーンを見て思うのであるが、ラグビーでは得点した選手のオーバーアクションが比較的少ない。トライをした後、まるで何事もなかったかのように飄々と自陣に戻ってくる選手が多い。その選手のもとへ、ボールをつないだ仲間たちが集まってきて肩を叩きあつて喜んでいいる。お互いに苦労して、手柄を上げて自分の成果だと主張せず、みんなで喜びを共有する。「個人より仲間」、ここがラグビーの美学の一つだと思う。





TEIKYO UNIV. RUGBY FOOTBALL CLUB

ふちじょうれん◎関商工(平成29年度卒、3年時キャプテン)ー帝京大学
PR(プロップ)/180cm・113kg。教育学部4年に在籍
部では主務補佐を務めチケット販売などの事務もこなす。安定したスクラムでFWを支える緑の
下の力持ち。帝京大学を大学選手権9連覇に導いた名将・岩出監督も「コソコソまじめに取り組
む選手」と評し、努力の成果をグラウンドで出してくれることを期待する。

「泓城蓮」帝京大学ラグビー部

泓選手は、多くの日本代表を輩出している強豪大学を安定したスクラムで支えている縁の下の力持ちだ。実家は、由緒あるお寺である。家庭の方針もあり、幼いころから外へ出て成長したいとの思いが強かった。プロサッカー選手を目指し県内の強豪中学校へ進むも、サッカー選手としての壁にぶつかってしまふ。そんな時、ラグビーを勧められ、どうせやるならと県内の高校である関商工の門をくぐった。将来は関東の大学でプレーすることを目標に励み、経験者に追いつくため技術を磨いた。体づくりも怠らず、体重は3年間で30kgも増えた。3年時にはキャプテンを任されたが、この年は惜しくも花園出場は

関商工のラグビー部員へアドバイスを求めると「目標を持ち、それを具体的にイメージすること。細かい技術をおろそかにせず、こたわって磨き続けること。外の世界へ自分から出て行き、もまれる経験をする。僕もまだまだですが、これからも前進し続けまう」と意識を高く持って取り組むことの大切さを話してくれた。今後の活躍から目が離せない。



山口 正昭さん(平成27年逝去)

やまぐちまさあき◎昭和17年、長崎県生まれ。
新田高校-日本体育大学-岐阜県教諭。
現役時代のポジションはWTB。
昭和40年の岐阜国体を機に来岐。翌年、関商工ラグビー部の監督に就任すると、以降50年間にわたり指導を続け、関商工を全国大会出場の常連校に育て上げた。平成15年、副校長を最後に退職。その後もラグビー部総監督、県ラグビー協会理事長などを歴任。多くの功績を残し、「ラグビーのまち関」の礎を築いた。

「ラグビーのまち関」を築いた功労者

品位

関商工を全国有数の強豪校に育て上げ、関市にラグビーを根付かせた功労者は、間違いなく山口正昭先生と言えるでしょう。新田高校(愛媛県)で全国大会に出場、大学では日韓スポーツ交流戦で日本代表としてプレーするなど、選手としても目覚ましい活躍を残しています。

昭和41年に関商工ラグビー部の監督に就任すると、卓越した指導力と熱意で、全国大会出場41回を誇る県内無敵の常勝軍団を作り上げました。関商工の伝統である「展開ラグビー」は、先生が現役時代WTBであったため、流れるようなパス回しを好んだからと言われています。

夜遅くまで部員のラグビー日誌に朱筆するなど、部員一人一人と真正面から向き合う姿勢に多くの卒業生が、ラグビーを通してたくましく、明るく前向きに生きていく

ことを教えられました。ラグビー部の井川監督も教え子の一人。「私にとっては厳しくも憧れの存在。先生に憧れて教員の道を目指した。高校生の時、先生のもとでラグビーができたことで、その後の生きていく道が開けた。」と先生への感謝を話します。

活動は部活だけにとどまらず、グリーンフィールド中池をはじめとしたラグビー環境の整備や、市内にラグビースクールを立ちあげるなど、ラグビーの普及、発展にも尽力されました。

先生のことを取材とすると、関わりのあった人たちは、みな様にうれしそうな顔で伝説の数々を語りまます。先生への畏敬の念と愛情を込めて、関市を県内随一のラグビーのまちに育てた人物は、今なお多くの人に愛され語り継がれています。



トライを決めた選手を囲み喜びを分かち合うフィフティーン。
ラグビー意匠では、ファンを含めラグビーに関わる全ての人に共有してほしい価値観として「品位」「情熱」「結束」「規律」「尊重」の5つが掲げられている。

一昨年、日本でのラグビーW杯が大成功に終わったことは記憶に新しいが、関市にはキャンプ地として強豪南アフリカ代表に来ていただいた。準備期間が少なく手作りではあったが、温かいもてなしに代表選手団も喜んでいました。関市にラグビーというスポーツが浸透していたからこそできた対応であったと思う。キャンプの誘致を実現させた関係団体の皆さんに、この場を借りて心から感謝の意を表したい。

ここでの経験を引き継ぎ発展させながら、これからも一人でも多くの人がラグビーを楽しみ、ラグビーを語り、ラグビー文化が根付くまち関市を目指して、みんなでスクラムを組みチャレンジしていきたい。

(関市ラグビーフットボール協会 会長)